

「インディスティンクト+Q」シリーズ 総集 編 製品版収録作品

すべての作品で表紙1ページとなっています。ページ数はサイズ（大）のものです。

第11話から14話のみサイズ（小）がありますが、1ページあたりの文字数が少ないためページ数はここに書かれたものより多くなっています。

・ 第1話 作業員、標的は身内

テレビのニュース番組で、トラブルを起こす親族を殺害した男性が報じられていた。それを見た男が考えていたこと。どうみてもろくな考えではないと思われる。

本編9ページ。

・ 第2話 効果と騒ぎ

ある中学校ではサッカー部の顧問による不適切な言動で部員である一人の男子生徒が精神的に参り果ててしまった。だがこの時点では、運動部が好成績を収めればその部の指導者がある程度は持ち上げられる、そんな風潮が強かった。

中学校の校長がそれを利用しようと…

本編8ページ。

・ 第3話 呪いの原因

ある男の交際相手の女性が自ら命を絶った。理由は、呪いを断ち切るため。そんなメッセージを残して。

生前、女性はある市からの郵便物を受け取っていた。

その内容は…

本編13ページ。

・ 第4話 実際、使えるの？

ある国の職員は日本での一仕事を終えた後、本国へ帰ることとなる。本国から帰国のときに注意するようにと連絡を受ける。

その理由は政治に関わるある日本人男性の言動が…

本編7ページ。

・ 第5話 自分でやるから

ある女性の彼氏が死んだ。殺されたといってもいい状況だった。彼氏は両親をある男から助けようとした。

以前から彼氏の両親はその男について警察に相談していたが、警察の対応がきちんとしていたのか疑問を感じた女性は…

本編8ページ。

・ 第6話 操った者へと向かう

17歳、高校2年の少年は自分の彼女を殺された。刑が確定した35歳の実行犯の男性についてはとやかく言うつもりはない。

実行犯を精神的に支配していた者が殺人をさせたこの事件、少年は事件に関する目的を果たそうと、富山県東部のある市に向かう。

本編9ページ、あとがき1ページ。

・ 第7話 威力強過ぎ

26歳の男性は2丁の拳銃を入手。一つは威力が低く、ちょっとした防壁で止まってしまう。

もう一つは貫通力が強い弾を使用するため、貫通した弾が無関係の

ものを巻き添えにしないよう十分注意する必要がある。

それを考えた男性は……

本編13ページ。

・ 第8話 弾圧、俺達じゃない

41歳の男性公務員は、ある行政機関の地方の拠点地が勤務先。自分達が関わっている調査がらみで何者かにとって都合のいいようにしようとする動きがあると一部で報道された。

男性公務員やその上司、そして東京の本拠地にいるもっと上の人たちも、正確なデータが必要なのにそんなことをされては自分達が損害を被るのに、と戸惑う。

本編約11ページ。

・ 第9話 代償と支払い

春休みの日曜、もうすぐ高校二年になる16歳の女子高生がテレビを見ていると、ある地域の山間部の住民にインタビューをしている。

リポーターに答えていたのは年配の女性だった。その様子を見て、あんなことをしておいて、よくもまあ平然と笑顔を振りまくことができたものだと思った女子高生は怖いことを考えてみる。

それから日数が経過後、しまっておいた小さな箱を取り出し……

本編10ページ。

・ 第10話 来訪者をどう思うか

1987年、富山県魚津市で、複数の男子中学生が市内の小学校に通う4年生の男子児童を、自分達の快樂のために集団で執拗に追跡し、故意に自転車をぶついたり、自転車に乗った状態で蹴ったり

していた。

この出来事が起きたとき、平成生まれの現在26歳の男性はまだ生まれていなかった。

2015年、その出来事つながりで男性が「インディスタインクト+Q」になることに…

本編17ページ。

・ 第11話 発生地点と攻撃範囲

北陸地方のN市の飲食店で爆発騒ぎが発生。その後各方面に送られた関東の消印の郵便物の文書には、N市の全飲食店で酒類の飲み放題サービスを中止するようにと書かれていた。

犯人は無理やり酒を飲まされて体調不良を起こした学生がいる大学関係者か、それとも酒に酔った者からの暴力についてのトラブルがあった会社などの関係者か。関東の消印だったことも踏まえ警察は捜査をしていくが…

やがてある人物が大きく動き出す。北陸から離れたところにある小学校。その人物が在学中に体験した出来事。そしてその人物が就いていた仕事。それらについても警察が調べていくことに…

本編54ページ。

・ 第12話 冤罪と責任者扱い

二つの警察署と一つの地方検察庁に不審物が発射されて飛んできた。後に文書が送られてきた。

文書は市民に公開されることはなく、最初の不審物の警察署ではある男を慎重に調べることになるが…

本編約18ページ。

・ 第13話 工作の時期を待つ

26歳の女性はある県の天気を確認する。悪天候で交通機関がマヒしていても「作戦」を実行できそうに無い。作戦決行予定地はその県のある市。悪天候は収まったものの現地で地方自治関連の選挙があると知り、作戦に必要な条件をこう考える。

1. 標的に対する作戦実行時期は、早くても選挙結果が確定した後。さらに選挙の話題が落ち着くまでは待つことになる。

2. 自分がやろうとしていることは選挙がらみの陰謀ではなく、それなりの目的があつてのことである。目的をはっきり世に知らしめなくては成功とはいえない。

本編約9ページ。

・ 第14話 自分が謎の人物となり…

17歳の少年は無関係の人々を巻き込んだことは申し訳ないと思いつながらも、列車を乗っ取り支配することには成功した。しかし少年にしてみれば「支配できたのはせいぜい列車1本だけ」と思っている。

富山県富山市のある地域では功績を残したサッカースポーツ少年団があつた。その指導者は暴言や暴力ともとれる指導を行っていた。

そしてその地域では、所属児童がそういった指導に耐え、チームが功績を残したことでこんな空気に支配されるようになった。

所属児童は厳しい指導に耐え、成長したのだから立派になった者

として過大に扱わなければならない。

「厳しい指導」を受けてない者は「立派になった児童」が本来ならば批判されるべき言動を取ったとしても悪い部分を過小評価しなければならない。

そういった空気に対して「厳しい指導」をおこなったり、指導を受けた集団が功績を残せば何をしてもいいのかと強く思う少年は、自分がおこなった「支配」よりある意味広大な範囲の「支配」に挑もうと、遅くとも富山県内で決着を付けるつもりでいる。

また、列車の乗客の中にはスポーツ少年団の関係者の姿が……

本編 33 ページ。